

諸国への裁き

2009年6月21日 アシェル・イントレーター

イランの民衆蜂起

今週中東で最も重要なニュースはアフマディネジャド氏の不正な再選に対するイラン民衆による抵抗活動です。抵抗活動は今日で9日目を迎えました。活動する多くの若者たちは自分たちの命を危険にさらしながら自由を要求しています。イスラエルの新聞は広く紙面を割いてこの事件を報じています。イラン政権はこの事件を報道しないように報道陣を締め出そうとしていますが、個人の「ブロガー」が写真や内容をインターネットを使って送信しています。「ユーチューブ」に掲載された、デモ活動時に撃ち殺された若いイラン人女性の映像は世界に衝撃を与えました。

ネタニヤフ首相のスピーチ

イスラエルのネタニヤフ首相は今週、中東和平プロセスに関するスピーチの中でいくつか歴史的な宣言を行いました。彼は紛争の根は、イスラエルの存在自体に対するアラブ（「イスラム」と私は思います）の敵意が根幹にあるということを言明しました。もし和平を実現させるならば、イスラエル国家の明確な公認と法的承認がなければなりません。彼はまた、最近のイスラエルによる土地に関する譲歩は和平交渉に何の進展をもたらさず、かえって逆効果となっていることを述べました。

第二に、彼はイスラエルがこの地に住む権利はホロコーストを反映したものではなく、聖書の父祖までさかのぼる3500年の歴史にあると述べました。これは最近の政治会談に欠けていた鍵となる霊的、契約的な要点です。

最後に、ネタニヤフ氏はもしパレスチナ側が武装解除するならば、パレスチナ国家を支援する意志があると述べたことにより、イスラエル政局に新しい穏健で保守的な総意が形勢されました。それは全員を一致させるものではありませんが、大多数の見解を表したものです。

諸国への裁き

ヘブライ預言の書全体の中には長くて読むのが困難な、終わりの時に国々に対する神の裁きについて述べている章が多くあります。これらは新しい契約における救いに関する神の約束と同調させなければなりません。これらのみことば全体を比較しますと、いくつか繰り返されるテーマを伴って一定のパターンが浮かび上がります。

裁き

地上の国々は神によって裁かれ、罰せられます。すべての国々は神に対して反逆しているのです。最終的な反逆はイスラエルに対して一致して戦争をしかけることです。彼らに対する即座の裁きはその戦争での破滅として訪れます。例えば、**イザヤ書**において、バビロンとペリシテは **14 章**、モアブは **15-16 章**、シリアは **17 章**、エチオピアは **18 章**、そしてエジプトは **19 章**に神の裁きが述べられています。

執り成しの祈り

しかし、このような裁きは憐れみなくして預言されません。預言者たちはこれらの国々を救うために涙をもって執り成しをします。これらの預言は警告として見るもので、人々に悔い改めを呼びかけ、私たちの憐れみ深い神に赦しを求めるものです。「**私の心はモアブのために叫ぶ**」(イザヤ **15:5**) それゆえ、私たちはすべての国々に対して神の預言者の足取りを追って祈るように召命されているのです。

レムナントー残りの者

世界のそれぞれの国には真の信者の残りの者(レムナント)がいます。すべての国は裁かれますが、その国に対して神からの良き計画を有する義なる残りの者が存在するのです。その残りの者は極少数かもしれませんが、常に何人かの残りの者が存在するのです。「**モアブの栄光は、そのおびただしい群衆とともに軽んじられ、残りの者もしばらくすれば、力がなくなる**」(イザヤ **16:14**) **アラムの残りの者は、イスラエル人の栄光のように扱われる。**(イザヤ **17:3**) それゆえ、預言には二つの側面があります。全体として国家への裁きがありますが、残りの者に対する祝福を約束しています。

[注:すべての国が裁かれるという事実を変えることはできません。しかし裁かれる人々の数に対して残りの者に含まれる人々の数を変えることはできます。ここに私たちの愛、祈り、悔い改め、預言的な警告、そして宣教の違いを生み出すのです。裁きと残りの者のパターンは変えることはできませんが、それぞれの数は変えることができ、その数は私たちの行動によって変わってきます。]

イスラエル

各国に対する裁きと各国に住む残りの者に対する神のご計画との間に差があります。その差はそれぞれがイスラエルとどういう関係にあるかによって変わってきます。**ゼカリヤ 14 章**には「すべての国々」という言葉が2回出てきます。**2 節**に、すべての国々はエルサレムを攻めると述べられています。**16 節**には、生き残った者はみな礼拝するためにエルサレムに上ってくるとあります。**ローマ 11 章**にはすべての国々の残りの者はイスラエルに接ぎ木されたと述べられています。世界中の国々がイスラエルを攻撃する一方、国々の残りの者はイスラエルの残りの者に接ぎ木されるのです。

[注:この霊的な再編成は権威の移譲と関係しています。神はダビデに契約を通して、地上の統治に対する法的な権限を与えられました。イエシュアはダビデの子として、その権威を打ち立てるために来られました。イエシュアは御国の権威を第一世紀の使徒たちに移譲しました。彼らは次にすべての国々の信者と御国のパートナーシップを結ぶことを決定しました(使徒 15 章、エペソ3章)。現在、そのパターンは逆転しています。教会は霊的な権威をイスラエルにおいて回復した使徒による共同体に返そうとしており、それによって地上の支配と君臨のためにイエシュアをお招きするのです。(マタイ 23 章)]

現在

これら多くの預言は以前の世代に対しては「封印」(理解するのが事実上不可能)されていましたが、私たちの世代に成就し始めています。「封印」は取り除かれ預言は私たちの目の前で明らかになりつつあります。1.イスラエルが国家として回復した。2. すべての国々はイスラエルに怒りを覚えている。3. 福音が世界中の国々に述べ伝えられている。4. イスラエルの残りの者たちが回復した。5. 各国の生まれ変わった残りの者たちはイスラエルの残りの者と同調し歩調を合わせ始めている。

諸国に対する神の裁きとイスラエルと教会に対する主のご計画を私たちが理解し宣告する時が来ているのです。